

あいち病害虫情報 最新情報

平成27年8月14日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

晴れの日が多く、気温はかなり高くなる見込み

8月13日、名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月は平年に比べ晴れの日が多く、気温は高い確率60%、降水量は平年並の確率40%、日照時間は平年並または多い確率ともに40%と見込まれています。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行くなど、健康管理に留意しましょう。

イネ紋枯病

イネ紋枯病の発生量は、やや多い状況です。平坦部では好天と暑さで病斑の伸展は抑えられてはいますが、中山間部では気温が菌糸伸長に好適な温度となっており、雷雨などにより湿度が高まると急激に上位葉に伸展する可能性があります。

ほ場内を観察し、発生状況に応じて、適宜防除しましょう。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、8月上旬の調査では、水田内、畦畔雑草ともやや多い状況です。ミナミアオカメムシの水田内での生息数が多いほ場も見られます。

普通期栽培品種は、これから出穂を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて、適宜防除しましょう。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、やや少ない状況です。

トビイロウンカについては、8月上旬の調査では水田内での発生を認めませんでした。トビイロウンカは、同一ほ場内でも場所により生息数に大きなばらつきがありますので、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して薬剤防除しましょう。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ

ダイズのオオタバコガの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、全体的には前年より少ない状況ですが、ほ場間での発生量の差が大きいので、注意しましょう。

ダイズほ場におけるハスモンヨトウの発生量及びフェロモントラップにおける誘殺数は、やや少なく推移していますが、ほ場で白変葉を確認したら早めに防除しましょう。

果樹の病害虫

チャバネアオカメムシの予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は、少ない状況が続いています。7月下旬のヒノキ球果の口針鞘数調査によれば、スギ・ヒノキ林内で成育した新世代成虫が果樹園へ飛来し始めるのは、本年は9月上旬以降と予測します。ただし、豊橋市嵩山町、蒲郡市清田町では8月下旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。また、今年は果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量が平年に比べやや多いため、当年成虫の発生量はやや多いと予測します。ほ場への飛来状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、南知多町、蒲郡市ともにやや少ない状況です。第6世代成虫の発生ピークは、名古屋8月26日、大府8月29日、愛西及び豊田8月31日、蒲郡及び伊良湖9月1日、岡崎9月2日、南知多9月3日、豊橋9月4日、新城9月7日、稲武における第4世代成虫の発生ピークは、8月20日と予測します（8月13日までの実測値で計算）。ミカン果頂部が加害される時期ですので、発生ピーク

予測を参考に防除しましょう。

ナシヒメシクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市のモモ及び安城市のナシでやや多い状況ですが、その他の地域では平年並からやや少ない状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

ブドウは、収穫が終了したら、べと病の防除をしましょう。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、一部の地域を除きやや多い状況です。幼虫の成育に好適な条件が続きましたので、今後、さらに発生量が増加することが予想されます。引き続き、ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。例年、8月から9月にかけて発生が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズ畑の被害状況を参考にし、ほ場での発生に注意し、適宜防除しましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、一部の地域で育苗ほにおける被害が増えてきています。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、7月下旬から田原市において増加しました。ほ場での発生に注意しましょう。

ハイマダラノメイガの生育に好適な条件が続いています。アブラナ科野菜は、発芽、定植直後に本種に加害されると、被害が大きくなります。播種時や定植時に薬剤散布するなど、初期被害を防ぎましょう。

今後、平年に比べ晴れの日が多く、チョウ目害虫の繁殖に好適な環境が続く見込みです。発生が急激に増えることもありますので、ほ場での発生状況に注意してください。また、アブラナ科野菜の育苗では、防虫ネットを設置して成虫の飛来を防ぎましょう。

トマトのタバココナジラミ

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

- 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）
今年度の重点事項は次の3つです。
 - 1 農薬ラベルの十分な確認
 - 2 農薬の飛散防止
 - 3 農薬の盗難・紛失等の防止
- 農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 暑い時期です。作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病虫害防除室
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820